

健診結果のビジュアル・レポートを ご覧ください—健診結果を「見える化」しています！—

健診の結果表は見慣れない用語や細かい検査数値が並んでいるので判定だけを見て、よくわからないまま、どこかへしまっていますか？

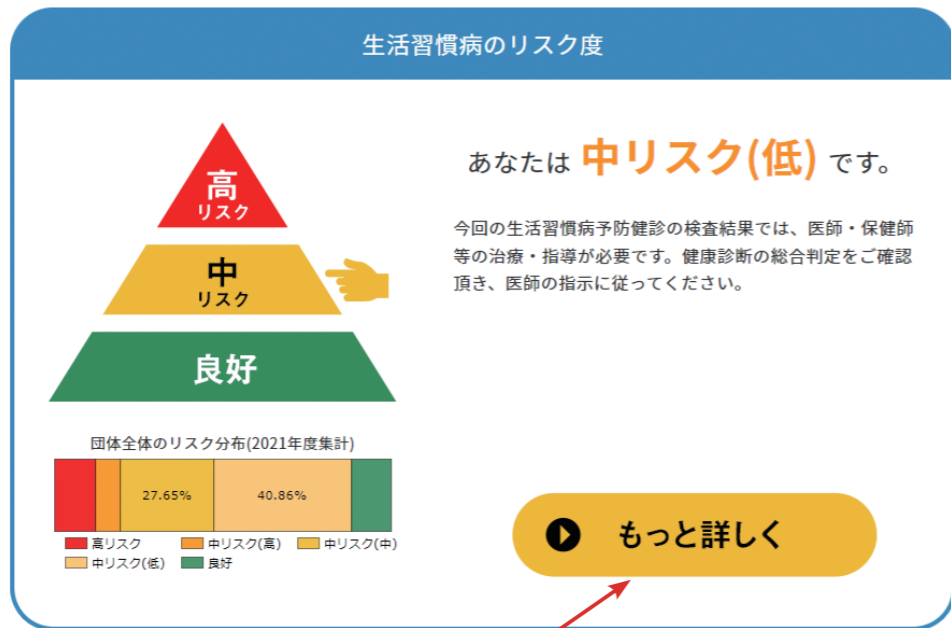
そこで健診結果をカラー化、グラフ化して、みなさんにできるだけわかりやすく、自分の健康状態を把握できるレポート機能が、当組合ホームページにありますので、ぜひご覧ください。

1 まずは、こちらのバナーをクリック!



2 ログイン認証ページになります。ご自分の「ユーザID」と「パスワード」を入力してください。

3 あなたの「生活習慣病のリスク度」を表示します。(「高リスク」、「中リスク」、「良好」の3つに区分。) 下の「団体全体のリスク分布」は、当組合の受診者全体の中での高リスク、中リスク、良好となった方の割合です。



4 さらに、詳しい内容を表示する場合は、こちらをクリック!

5 「生活習慣病のリスク度」を判定する6つの項目(血圧、糖代謝、脂質、腎機能、肝機能、肥満)ごとのリスク度を色で区分し表示します。(右の例では、脂質と腎機能が黄色で中リスク。それ以外は緑で良好となります。)

6 6つの項目ごとに、もっと詳しい内容を表示する場合は、それぞれの項目をクリック!

7 クリックした項目に関する検査結果の数値が過去5年(回)分グラフ化され、問題のある検査結果の数値がひと目でわかります。また、その項目に関連する主な病気や、その検査数値が異常になると体がどういう状態になっているかとともに、その異常値を改善する方法等の解説が加えられています。



腎機能の状態

引き続き生活習慣の改善に努めていただき、健康に留意してください。

※上記コメントは2022年4月25日の健康診断結果に基づいた内容を表示しています。

検査項目	単位	参考基準値	結果値				
			2018/5/22	2019/5/8	2020/8/3	2021/4/20	2022/4/25
eGFR	ml/min/1.73m2	90~	60.76	70.28	62.15	75.16	63.00

● 高リスク ● 中リスク ● 良好

eGFR値は、性、年齢、血清クレアチニンの値から計算します。

腎機能に関連する主な病気

糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症、腎臓がん

腎機能とは?

腎臓の主な働きは、血液中の不要なものを取り除き、それを水分と混ぜて尿として排泄させることです。この働きを評価する代表的な検査として、クレアチニンの血液検査と、尿のたんぱく検査があります。腎臓は体内の不要な物質を排泄する臓器ですが、加齢や他の病気の影響を受けて、その働きは低下します。血清クレアチニンは、筋肉で作られる老廃物で、腎臓から排泄されます。しかし腎臓の働きが悪いと排泄されにくくなり、その結果、血液中の濃度は高まります。この現象を利用して、血中クレアチニン濃度から腎臓の働きを推定します。しかし血清クレアチニンは腎臓機能が半分以下になるまで値が変化しないという欠点があります。そこで考案されたのが、「eGFR(推算糸球体ろ過量)」(イー・ジー・エフ・アール)という検査値です。これはクレアチニン値に、性や年齢による補正をして算出します。間違いやすい問題は、腎臓機能が低下すると、血清クレアチニンは上昇、eGFRは低下と相反することです。

尿たんぱく検査は、尿にたんぱく質が含まれていないかを調べる検査です。たんぱくは、体にとって必要な物質であるので、正常であれば尿たんぱくは陰性(-)、すなわち尿には漏れ出てきません。しかし高血圧により腎臓に負荷がかかっている、あるいは糖尿病などにより構造が破壊された状態では、腎臓から尿に混じってたんぱくが漏れ出て、尿たんぱくが陽性の結果となります。量に応じて、(±)、(+)、(2+)となります。

腎機能が異常になると?

腎臓の働きが低下してくると、次第に血液中に老廃物が溜まるようになります。腎臓の低下は、eGFRが60未満になることや尿たんぱくの出現で確認されますが、自覚症状にはほとんど現れません。腎臓の働きが15%未満(eGFR値15未満)の状態に近づくと、むくみや尿毒症の症状(頭痛、吐き気、食欲低下など)も出てきます。このような状態は命にかかわるため、腎臓に代わり人工的に血液をきれいにする透析療法を行う必要があります。

腎機能の異常を改善するには?

腎機能低下の個々の原因に対する治療が基本です。例えば高血圧なら血圧を下げる薬の使用、糖尿病なら血糖改善薬などの治療です。これらの薬物治療が、腎機能低下の進行を抑制してくれるのです。

今は良好の範囲内の数値でも、年々数値が悪くなっている方は、そのままにしておくと、すぐにリスク者になります。早期に生活習慣を改善してください。

また、高リスクとされた方で、まだ医療機関を受診していない方は、すぐに受診してください。